

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人胆沢やまゆり会		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	岩手県奥州市胆沢区南都田字大持30		
自己評価作成日	平成23年9月25日	評価結果市町村受理日	平成24年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372500496&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、高齢者総合福祉施設ぬくもりの家の併設施設として開設し「奥州市立まごころ病院」「健康増進プラザ悠悠館」と廊下でつながっており、保健・医療・福祉の充実が図られています。施設内には、地域交流スペースがあり地域の方々の作品の展示発表の場として提供されています。区内の知的障害者通所授産施設「コスモスの家」の皆さんが喫茶コーナーを開設しています。また、区内3小学校の子供たちが「里孫」のボランティア登録をし、利用者との楽しい交流が続けられています。休日には、「里孫」たちの元気な声が響いています。本年度は、開設10年目という節目を迎え、9年間を振り返り「安全・安心の基本的ケア」に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、奥州市の北西部国道397号線に近い田園地帯に位置し、胆沢高齢者総合福祉施設として、同法人で経営する特養ホーム、デイサービスセンター、訪問および入浴介護事業所、生活支援ハウス等が中にあり、隣接して奥州市立まごころ病院、健康増進プラザ悠悠館が、廊下で繋がっており、これらが有機的に連携し、効果をあげている。近くには文化創造センター、消防署、体育館等の運動施設、市の総合支所等がある。また、施設内には、広い地域交流スペースがあり、各種の催しものが開催され、喫茶コーナー、軽食堂等も開設され、地域住民の交流の場として利用されている。特徴的なことは、「里孫」制度を設け、近隣の登録した小学生が時々来訪され、利用者と交流することにより、事業所内に子どもの声が響き、明るい雰囲気がかもし出されることである。今後は、事業所の持つ認知症についてのノウハウを地域の方々の必要に応じて還元出来るよう、その体制作りを検討中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人理念」「ぬくもりの家基本理念」「GH介護理念」をパート職員も含めた全職員、月1回唱和している。また「キーワード」を朝礼時に唱和・実践している。	法人全体で掲げる「理念」「ぬくもりの家理念」「GH介護理念」を毎月開催される職員会議の折、パート職員を含めて全員で唱和し、内容を確認し合っている。職員全体のキーワードである「3つのしあわせ」についても同様である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流スペースで地域の人たちとの関わりを持つ機会が多い。また隣接している悠悠館やまごころ病院での交流もある。小・中学校の運動会の見学・学習発表会への招待や里孫との交流が継続的に行なわれている。	近隣の小学校の運動会、学習発表会、地域の催し物には出来るだけ出かけるようにしている。また、事業所内にある地域交流スペースでの交流も図れるようになっている。「里孫」が時々訪ねてきて、折り紙、ケーキ作りなどをし、楽しみながらの交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「達者の里構成施設研究発表会」に於いて、当事業所の取り組みについて発表し、医療関係者、各種関係者、地域の方たちに理解が得られた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価・外部評価の結果や事業計画・事業報告・利用者状況の報告をし、助言を頂きながら運営に生かしている。また利用者も会議に出席している。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、現況報告のあと、委員から様々な提案が出て検討され、出来るものから実施に移している。最近の話題では「災害等の非常時に、速やかに住民に状況を知らせる方法として外壁に赤色回転灯を取り付けたら」などが出された。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者について問題や課題が生じた時、随時相談をし区担当者、地域包括支援センター職員と情報を共有しサービスしている。	必要により、市の胆沢総合支所の担当課、地域包括支援センターの関係者と連携を密に取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という全職員の共通認識で目配り・気配りをし、その人らしい生活を支援している。当事業所の職員も「身体拘束廃止検討委員会」の委員となり、研修会を行なっている。	各種委員会の中に「身体拘束廃止委員会」を設置して、話し合いの内容を職員全体に公表し、身体拘束の無い介護を目指している。また、法務局人権擁護委員の方の講話も頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会や職員会議で研修を行い周知している。また、外出、外泊から戻った時には状態観察をしている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護委員が年2回来所し、利用者や職員からの話を聞いてくれる。職員研修会で研修を行っているので、必要な時に支援できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一連の説明を行い、理解を得ている。また疑問については丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケート調査を行い、意見や苦情等について検討しサービスに反映している。家族からの要望で家族会は設けていないが「小旅行」「敬老会」等に案内をし、聞く機会を設けている。	ご意見箱は設置しているが利用はない。年1回家族アンケートを実施していて回収率は大変良く、様々な意見・要望等が出される。その内容について職員会議で検討され、出来るものから実施するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議や随時出された意見や提案は、各委員会や運営会議等で聞く機会があり、要望等は活かされている。	月1回開催される職員会議で、各委員会や日常の引継ぎ会等で話し合われた内容について検討され、サービスの向上につながるものについては、積極的に取り入れるようにしている。事例としては夜勤の勤務態様について職員の希望に沿うよう改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援がある。また、昨年度から人事考課制度を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、階層別研修・職員研修会・出張復命会を計画的に行なっている。また外部研修も積極的に行っている。パート職員も研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「GH協定例会」への出席や他施設視察研修、施設交換研修を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態や思いを聴くようにしてコミュニケーションを密にし、職員間の情報を共有しながら、安心と信頼につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態や家族の困っていることをゆっくり聴いている。本人も一緒に施設内を見学し、GHの生活をみてもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターと情報を共有しながら可能な限り、柔軟に対応している。また総合施設としての特性を生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護理念」を実践している。畑作業や家事・季節の習わし等、様々な場面で利用者から教えられることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の写真を添えて、生活の様子を伝え、共に支え合えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問時は、地域交流スペースや談話コーナーを利用し、周囲に気兼ねなく過ごしてもらう。またドライブ等で訪ねたりしている。家族の宿泊でより絆が深まった。	特徴的な地域交流スペースを利用しての訪問者との交流、デイサービス利用者との訪問交流、時には家族の同室でのお泊り、自宅に帰っての一時的泊りなど本人・家族の希望に出来るだけ沿うように配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、職員は情報を共有し「その時、その瞬間」を大切にしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域包括支援センターと情報を共有しながら、併設のデイサービスの利用者やヘルパーの利用、また母体施設の特養入所などの相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で寄り添い、一人ひとりの思い、意向について利用者の希望を把握している。意思疎通困難者には、特に関わる時間を多くもっている。	帰宅願望の強い方、自分の思いを伝えることの出来にくい方などには寄り添う時間を多く持つなどして、その気持ちを理解し、気分転換を図る工夫をしたり、思いを叶えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族が分からない部分については、知人・友人が訪ねて来た時の会話からくみ取っている。また場面ごとに会話したことを記録しておく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌への記録の他、連絡帳を活用し情報の共有を図り、一人ひとりの生活を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が密に関わることで、思いや意向をくみ取っている。また状態の変化に臨機応変に対応し、全職員が共有し連携している。家族の面会時には様子を伝えている。	日々の変化については、職員連絡帳で共通理解を持つようにしている。ケアのあり方については家族の来訪時、必要により電話等で情報を交換し合い、速やかにより良い介護ができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・気分行動・バイタル・受診・食事量・水分量・排泄・入浴等を個別に記録し情報の共有を図っている。また変化があった際には介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ施設内にある各事業所の特性を生かした支援を行なっている。また廊下でつながっている病院や地域包括支援センター、奥州市健康福祉課との速やかな対応を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアの受け入れや、地域の協力を得ての消防訓練や区内3小学校の児童との「里孫交流」を続けている。また学校行事にも出向いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じているが、利用者は近隣の協力病院（内科・外科・整形外科・歯科・リハビリ）への受診となっている。また、それ以外の受診については状況に応じ対応している。	事業所に隣接する「まごころ病院」の医師をかかりつけ医にしている利用者が殆んどで、ここにはない精神科、眼科については別の医院の診療を受けるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、利用者の健康管理を行なっている。また近隣する病院の医師・看護師・薬剤師・PT、歯科衛生士・OTと気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁に職員が見舞い・回復状況の把握をしている。また、家族の話を聞きながら主治医と話し合う機会を持ち、早期退院の支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族が希望すれば、受け入れる方向で検討する。「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。	当事業所独自の「重度化した場合における対応に係る指針」を定め、利用開始時に家族に説明している。今までに1名の方のターミナルケアに近い介護をした経験を持っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」は大変詳細な内容であるが、職員の共通理解と協力体制が重要になってくると思われるので、職員間での一層の話し合いを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が年1回、救命救急研修として心肺蘇生法、AEDの研修を実施している。また、救急時の対応や吸引器の取り扱いについて定期的に行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に通報訓練・非常召集訓練・消火器操作・屋内消火栓操作の訓練を行なっている。また地域住民と防災協定を結び、年1回「総合防災訓練」を実施している。	年間計画に従い、法人として年間数回の避難訓練を実施し、年1回は総合防災訓練を地域住民と防災協定を締結し、それに基づいて各種の訓練を行なっている。非常時に備えて法人として食料等の備蓄をしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」の実践と「利用者のプライバシーの保護」「職員としての論理」の研修をし、一人ひとりの人格を大切にしよう努めている。	利用者を対象とした「職員禁句集」を独自に作成し、職員は、きめ細かい、思いやりのあるサービスに心がけている。また、利用者のプライバシーの保持についても心配りがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味活動(習字・生け花・歌・踊り・畑作業など)の選択やドライブのコース、外食のメニュー選びなど自分で選ぶことが出来るよう支援している。また家族から情報を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外食や出前による食事を楽しんでいる。また喫煙や飲酒にも柔軟に対応している。外部の演芸鑑賞にも出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	思い出のある衣類を本人と選びながら最大に生かしている。また本人が選び不十分なところはさりげなく直している。月1回の訪問理髪があるが、顔なじみの理容室を利用することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑作業を通じて、季節の野菜を収穫し調理に活かしている。収穫した野菜を洗ったり冬越し野菜の準備を利用者と一緒に行なった。利用者の状態にあった仕事を継続的にこなしている。	当事業所に隣接する「達者の里公園」の一角に菜園を作り、職員と利用者のうち、農作業の出来る方と共同で季節の野菜を栽培し、収穫の喜び、調理する楽しさ、自分達で生産した食材を食べる楽しさを味わえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食チェックし記録している。不足しているときは代替食や刻み食、トロミをつけるなど工夫している。また週1回、管理栄養士に検査簿を提出し助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいと就寝前の口腔ケア・義歯洗浄の支援をし、清潔に努めている。また、毎食前の嚥下体操を実施し、誤嚥の防止に努めている。義歯調整や治療等は隣接するまごころ病院歯科受診の支援をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	サービス開始時や状態の変化により、排泄チェックを行い、排泄パターンの把握に努めている。すぐにオムツ使用せず、重度者にもトイレでの排泄や夜間の声がけ、トイレ誘導介助を行なっている。	個々人の排泄パターンを把握し、さりげない誘導により、本人が失敗によって心を痛めないような支援をしている。利用者によっては、利用開始時に比べ、改善されてきている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、乳酸菌飲料を提供している。また普段から野菜を多く取り入れた食事に努めている。排泄チェックにより個々のパターンを把握しているので、散歩や水分補給に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大震災後、夜間の入浴は中止しているが、毎日を入浴日に行っているため、本人の希望により入浴の支援を行なっている。	入浴回数は2日に1回や3日に1回を希望する利用者が多く、午後に入浴出来るようにしている。バイタルチェックにより、清拭、足浴にすることもある。浴槽が深いので底上げをしたりして介助しやすいように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇活動(散歩・買い物・習字・生け花・裁縫・畑作業等)を行い、メリハリのある生活を支援している。不眠時は夜勤職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容が把握できるように個別のファイルで確認している。また個包にし氏名、服用時間・薬剤名を印字してもらい間違いのないように行なっている。薬の変更があった場合、記録に残し情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な仕事や趣味などが発揮できるよう支援している。職員が畑作りに指導してもらうことがある。また季節の習わし事などを教えてもらうことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの小学校の運動会や開校記念日、コンサートに出かけるなどの支援をした。重度者に対してもリフト車を利用し、全員参加を実施している。日常的にドライブ・外食を行い、季節感を味わい、地域の人達との触れ合いを支援している。	出来るだけ事業所内に閉じこもらないよう支援をしている。食材の買出しに近くの産直やお店屋さん、スーパーなどに、出掛ける時は声がけをして多くの方に参加してもらっている。水沢の「よさこい祭り」を見学し、好評であった。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内自販機や売店、移動販売、公衆電話を自由に利用している。また喫茶コーナーの利用も行っている。財布ののしまい忘れがある方には複数の職員でさりげなく確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用される方には、かけ間違いのないよう確認し、職員はその場を離れるなどの配慮をしている。家族から電話があった時は取り次ぎする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柱時計や日めくりカレンダー、掘りコタツ、足踏みミシンなど生活感や季節感を取り入れている。また昔懐かしい食器を使用し元気な頃を思い出せるような工夫をしている。	事業所内は、オール電化で床暖、居室はエアコンがあり、照明等も程よい明るさになっている。廊下には適度に過去の行事を思い出せるようにスナップ写真等が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーが3ヶ所、廊下の長椅子、和室があり「その時、その気分」で過ごせる。観葉植物の水やりや水槽の金魚の餌やりで成長を楽しみながら落ち着いた雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や身の回り品を配置し、自宅と同じような居室を再現している。畳を準備し、希望があれば和室にも対応できる。	私物の持ち込みは自由で、利用者によって、ベッド、テレビ、いす、整理たんす、など様々である。居室の一部に畳を敷き、家族と一緒に宿泊することも出来るようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は全てバリアフリーになっている。流し台、調理台は利用者が使いやすいように低くなっている。またオール電化で安全に配慮している。		